



# ほっ スピタル・かいづか

問合せ先 市立貝塚病院  
☎072-422-5865

## (46) 糖尿病と眼

近年、糖尿病患者は増加傾向にあり、国内患者数は約1,000万人、予備軍を含めると約2,000万人になります。糖尿病は合併症が怖い病気で腎臓、神経、そして眼に現れることが多くこれらは三大合併症と言われています。

眼の合併症は、糖尿病の初期ではほとんど自覚症状がないため軽視されがちですが、進行すると失明につながる深刻な状態に陥ってしまいます。実際に糖尿病を放置しているかたが少なくなく、毎年多くのかたが合併症で視力を失っています。糖尿病は成人の失明原因として大きな比率を占めているのです。

さて糖尿病の主な眼の合併症は糖尿病性網膜症です。眼の奥には網膜という神経の膜があり多くの毛細血管があります。高血糖の状態が長期間続くと毛細血管がつまり眼底出血などを起こし、さらに網膜の酸素不足が起こり、本来は正常網膜には無い出血しやすい新生血管が発生し硝子体出血や網膜剥離などを起こします。他には白内障、角膜障害、黄斑症、屈折・調節異常、虹彩毛様体炎(こうさいもうようたいえん)、血管新生緑内障、外眼筋麻痺、虚血性視神経症などの合併があります。

眼の合併症は、糖尿病と診断された時から定期的な眼科検査を受け糖尿病と眼科の適切な治療を続けていれば進行防止が可能です。

当院では糖尿病性網膜症などの診断に必要な検査機器が充実しており、治療として必要なレーザー光凝固術、抗VEGF硝子体内注射、硝子体手術などを行っています。

糖尿病と診断されたら必ず定期的に眼科を受診しましょう。

診療局長・眼科主任部長 藤井節子